

2020年度「グローバル人材育成のための日本語学校留学生に対する日本語教師初任者研修カリキュラム開発事業」

ヒューマンアカデミー株式会社

研修日程・時間割・担当講師名

*教育内容①～⑩は、「日本語教育人材の養成・研修の在り方について(報告)改訂版」のP81による

A e-learning 科目

VODNo.	教育内容	科目	動画視聴+活動時間(単位)	担当講師
1	①	日本の留学生受入れ施策	90分(2単位)	安井亮太
2	②	法務省告示日本語教育機関の歴史と現状	90分(2単位)	大嶋智規
3	⑧	自己点検	90分(2単位)	青柳恵
4	⑩	著作権	90分(2単位)	竹本和弘
5	知識	習得過程	90分(2単位)	向山陽子
6	知識	言語習得を促進する指導	90分(2単位)	向山陽子
7	④	日本と海外の教育制度の違い	90分(2単位)	大嶋智規
8	⑤	進路選択関連情報	90分(2単位)	大嶋智規

B 集合型研修科目

回	時限	1	2	3	4
	単位	90分(2単位)	90分(2単位)	90分(2単位)	—
	教育内容 科目	科目	科目	科目	—
1	⑥⑦	留学生の異文化受容・適応(概論)	留学生の異文化受容・適応(ケース)	日本語の学習・教育の情意的側面	1日の振り返り
2	技能	日本語教育プログラムの理解と実践	コースデザイン概論	授業計画	1日の振り返り
3	技能③⑨⑩	教授法	留学生のための教材・教具リソース	日本語の試験・統計処理	1日の振り返り
4	⑧	目的・対象別日本語教育	教室・言語環境の設定	論文・議論の指導	1日の振り返り
5	⑧	初級演習 対象別指導法	初級演習 評価法	初級演習 指導案作成	1日の振り返り
6	⑧	初級演習 教材作成	初級演習 教室活動	初級演習 教室活動	1日の振り返り
7	⑧	初中級演習 対象別指導法	初中級演習 評価法	初中級演習 指導案作成	1日の振り返り
8	⑧	初中級演習 教材作成	初中級演習 教室活動	初中級演習 教室活動	1日の振り返り
9	⑧	中級演習 対象別指導法	中級演習 評価法	中級演習 指導案作成	1日の振り返り
10	⑧	中級演習 教材作成	中級演習 教室活動	中級演習 教室活動	1日の振り返り
11	⑧	上級演習 対象別指導法	上級演習 評価法	上級演習 指導案作成	1日の振り返り
12	⑧	上級演習 教材作成	上級演習 教室活動	上級演習 教室活動	1日の振り返り
13	⑧	経験の振り返りや議論等を通じた内省力の強化	成果発表	成果発表	1日の振り返り

文化庁 日本語教育人材の養成・研修における教育編成の目安

★ 1科目 90分 2単位

形態	5区分	16下位区分	求められる資質・能力	教育内容/科目	ねらい	内容
講義 e-learning	VOD1	社会・文化・地域	②異文化接触 【1 留学生に対する指導の前提となる知識】 【1 言語教育者としての態度】 (2)日本語学習者だけでなく、進路選択に関しても担当者と連携し、多様な関係者と共に関わり、指導を実践しようとする。	日本の留学生受入施策	在留資格「留学」に関する基礎知識と、在留管理における注意点を理解する。	1. 日本語教育機関の告示基準 2. 在留資格「留学」 3. 在留管理 4. 在留期間の更新
	VOD2	社会・文化・地域	③日本語教育の歴史と現状 【1 留学生に対する指導の前提となる知識】	法務省告示日本語教育機関の歴史と現状	・日本における日本語教育機関の歴史を知る。 ・日本語教育機関とそれを取り巻く社会情勢の現状を知る。	1. 留学生の受け入れを他の先進国と同じレベルにする 2. 外国人留学生急増 3. 新たな外国人受け入れ体制
	VOD3	言語と教育	⑩言語教育法・実習 【2 成長する日本語教師になるための技能】 (6)指導計画に基づき実践した授業や教育活動を分析的に振り返り、改善と新たな実践のための検討ができる。 ⇒ <演習>初級、初中級、中級、上級	自己点検	・日本語教育機関(告示校)の自己点検の内容、手法を理解できる。 ・自分の授業について自己評価をすることができる。	1. 日本語学校の告示基準による自己点検 2. 日本語学校の外部評価・第三者評価 3. 教師の自己点検・評価
	VOD4	言語情報と教育	⑫言語教育と情報 【1 留学生に対する指導の前提となる知識】 (3)ICT等の多様なリソースを活用した指導を行う上で、必要な知識を持っている。	著作権	著作権法を理解した上で、日々の授業をしたり、教材を扱ったりすることができる。	1. 著作権を学ぶ理由 2. 著作物と著作者 3. 著作者の権利 4. 他者の著作物を教材に使用するときの留意点
	VOD5	言語と教育	⑩言語教育法・実習 【1 留学生に対する指導の前提となる知識】 (4)言語習得に関する実践的な知識を持っている。	習得過程	第二言語習得の基本的概念を理解する。	1. 中間言語 2. 習得過程 3. 明示的知識と暗示的知識 4. 母語の影響
	VOD6	言語と教育	⑩言語教育法・実習 【1 留学生に対する指導の前提となる知識】 (4)言語習得に関する実践的な知識を持っている。	言語習得を促進する指導	第二言語習得理論に基づいて教育実践を考えることができる。	1. 「意味」から「形式」へ注意を向ける「フォーカス・オン・フォーム」 2. 習得を促進するために教師ができること 3. 第二言語習得の観点から考える教室指導
	VOD7	言語と社会	④言語と社会の関係 【1 留学生に対する指導の前提となる知識】 (2)進学や就職に必要な知識や、その内容を指導するために必要な知識を持っている。	日本と海外の教育制度の違い	大学進学を念頭に、入試要項などの応募条件と留学生の学習歴に差異がないか、差異がある場合にはどのように指導したらよいかを理解する。	1. 留学生が日本で進学するための条件 2. 日本の教育制度 3. 海外の教育制度 4. 教育制度の違いで起こる問題 5. その他の制度:準備教育課程、国際バカロレア資格、アビトゥア資格
	VOD8	言語と社会	⑤言語使用と社会 【1 留学生に対する指導の前提となる知識】 (1)キャリア支援の視点を持ち、それぞれの専門分野の学習に必要な日本語指導を実施する上で必要となる知識を持っている。 (2)進学や就職に必要な知識や、その内容を指導するために必要な知識を持っている。	進路選択関連情報	留学生が日本での進路を考える上で必要な知識を理解し、進路先に合わせた進路指導ができる。	1. 留学生の日本での進路 2. 年間の主な進学スケジュール 3. 受験に必要な書類 4. 進学先別(大学、大学院、専門学校)の進路指導と面接指導 5. 留学生が進学のために受ける試験 6. 日本語学校からの就職

回	時間	形態	5区分	16下位区分	求められる資質・能力	科目	ねらい	内容
第1回	1	講 義 集 合 型 研 修	社会言語と	⑥異文化コミュニケーションと社会	【3 文化的多様性・社会性に対する態度】 (4) 留学生を取り巻く国内外の社会状況の変化に関心を持つとする。 (5) 学校外の地域社会や他社とのつながりを持つことの意味を理解し、社会とつながる機会提供に努めようとする。	留学生の異文化受容・適応(概論)	自分の文化的価値観・先入観について意識化し、内省できる。	1. 文化の定義 2. 異文化理解 3. 異文化間摩擦が起きる理由
	2		社会言語と	⑥異文化コミュニケーションと社会	【3 文化的多様性・社会性に対する態度】 (4) 留学生を取り巻く国内外の社会状況の変化に関心を持つとする。 (5) 学校外の地域社会や他社とのつながりを持つことの意味を理解し、社会とつながる機会提供に努めようとする。	留学生の異文化受容・適応(ケース)	異文化接触の観点から留学生を捉えられるようになる。また、その中で起こり得る問題とそれに対して教員がどのように関わっていくかを考えることができる。	1. 異文化受容プロセス 2. 異文化適応プロセス 3. 留学生と教師の異文化摩擦
	3		言語と心理	⑨異文化理解と心理	【2 日本語の教授に関する知識】 (5) 学習者が他者と協働し、自律的かつ主体的に学んでいけるようにするために必要な知識を持っている。 【3 文化的多様性・社会性に対する態度】 (4) 留学生を取り巻く国内外の社会状況の変化に関心を持つとする。	日本語の学習・教育の情意的側面	メンタル的側面を中心に留学生が抱える特有の問題を理解し、教師や教育機関としてできる範囲やその内容について理解する。	1. 留学生が抱える悩み・ストレス 2. 留学生の支援 3. 日本語教師にできること、できないこと 4. 教師として配慮すべきこと①: 発達障害、学習障害(発達性ディスレクシア) 5. 教師として配慮すべきこと②: 宗教・民族・ジェンダー(LGBTQ)など人権にかかわること 6. 安心・安全な教室づくり
第2回	1		言語と教育	⑩言語教育法・実習	【1 教育実践のための技能】 (1) 日本語教育プログラムを踏まえ、学習者の状況に応じ、教育的視点から見て適切な指導計画を立てることができる。 ⇒ <知識>コースデザイン、授業計画 <演習>初級、初中級、中級、上級	日本語教育プログラムの理解と実践	教育理念をもとに指導方針、教育目標を理解し、授業実践ができる。	1. 留学生の「プロフィシエンシー」 2. Can-do, CEFR, JF-Standard, JLPT 3. 学習者中心、学習者主体の授業 4. H1、最近接発達領域 5. プロフィシエンシーを育てる学習の評価
	2		言語と教育	⑩言語教育法・実習		コースデザイン概説	コースデザイン、カリキュラムを理解した上で、日々の授業実践ができる。	1. コースデザイン 2. 背景調査、ニーズ調査、ニーズ分析、レディネス調査、レディネス分析 3. シラバスデザイン 4. カリキュラムデザイン 5. 評価、コンサルティング 6. 学習者中心のコースデザイン
	3		言語と教育	⑩言語教育法・実習		授業計画	1. 年間授業計画をもとに、日々の授業計画を作成することができる。 2. 日々の授業の指導案を作成することができる。 3. チームティーチングを理解し、講師間で連携・協力を図ることができる。	1. 日本語学校の授業計画・指導案の書き方 2. チームティーチング
第3回	1		教育言語と	⑩言語教育法・実習	【1 留学生に対する指導の前提となる知識】 (3) ICT等の多様なリソースを活用した指導を行う上で、必要な知識を持っている。 (4) 言語習得に関する実践的な知識を持っている。	教授法	留学生の「プロフィシエンシー」を育てるにはどのような授業活動がよいかを考えて、実践できる。	1. 教授法: 「わかる」から「できる」へ 2. 授業: 「わかる」から「できる」へ 3. 教師の役割
	2		言語と教育	⑫言語教育と情報		留学生のための教材・教具リソース	現在使われている教材・教具リソースを把握し、ICTの可能性について理解する。	1. 日本語学校で使われている教材・教具リソースと、その長所短所 2. 留学生対象の日本語教育の教室で使えるICT 3. 進学目的の学習者が自習できるICT
	3		社会・地域・文化・言語と教育	③日本語教育の歴史と現状 ⑫言語教育と情報		日本語の試験統計処理	現行の日本語の試験(日本語能力試験、日本留学試験、ビジネス日本語試験等)が何を測っているのか、またそれどのように統計処理されているのかを理解する。 Excelを使ってテストの結果の集計をする等、統計の基本的な処理ができる。	1. 正答率、識別力等と問題の難易度 2. 日常的に行う試験の統計的な処理

回	時限	形態	5区分	16下位区分	求められる資質・能力	科目	ねらい	内容
第4回	1	講 義 集 合 型 研 修	言語と社会	⑤言語使用と社会	【1 教育実践のための技能】 【2】キャリア支援の視点を持ち、それぞれの専門分野の学習に必要な日本語能力を身に付けるための効果的な指導ができる。 ⇒ <知識> 目的別・対象別日本語教育 <演習> 上級	目的・対象別日本語教育	多様化する日本語学習者のニーズを把握する。 留学生の日本語学習に関するニーズを理解する。	1. 留学生の学習ニーズと目的 2. 留学生の進学先で必要となる日本語力 3. 留学生の就職先で必要となる日本語力
	2		言語と教育	⑩言語教育法・実習	【1 教育実践のための技能】 【5】様々な規模・形態のクラスの管理・運営を行うことができる。 ⇒ <知識> 教室・言語環境の設定	教室・言語環境の設定	学習者のプロフィエンシーを育てるための教室活動を行うには、どのような教室環境、言語環境を整えればよいか理解し、実践することができる。 クラス運営の基本を理解し、クラス運営ができる。	1. 「教室」はどんな場所か 2. 学習者が主体的に動く教室活動 3. オーセンティック・ラーニング 4. 「言語環境」の設定 5. 出席管理・学習管理・成績評価 6. 学習者のコミュニティづくり
	3		言語と教育	⑩言語教育法・実習	【1 教育実践のための技能】 【2】キャリア支援の視点を持ち、それぞれの専門分野の学習に必要な日本語能力を身に付けるための効果的な指導ができる。 ⇒ <知識> 目的別・対象別日本語教育 <演習> 上級	論文・議論の指導	小論文の指導および議論の指導をする場合に、教師が知っているべきこと、考えるべきことは何であるかが分かる。	1. ディスカッションとは何か 2. ディベートとは何か 3. 小論文を構成する3つの要素 4. 小論文の作成手順

回	時限	形態	5 区分	16 下位 区分	求められる資質・能力	科目	ねらい	内容	
第 5 回	1	演習（初級） 集合型 研修	言語と教育	⑩ 言語 教育 法・ 実習	<p>【1 教育実践のための技能】</p> <p>(1) 日本語教育プログラムを踏まえ、学習者の状況に応じ、教育的視点から見て適切な指導計画を立てることができる。</p> <p>⇒ <知識>コースデザイン、授業計画 <演習>初級、初中級、中級、上級</p> <p>(2) キャリア支援の視点を持ち、それぞれの専門分野の学習に必要な日本語能力を身に付けるための効果的な指導ができる。</p> <p>⇒ <知識>目的別・対象別日本語教育 <演習>上級</p>	対象レベル別指導法	3 2 1 初級から上級までにおいて、「話す」ことの指導の流れを理解できるようになる。	1. 初級から上級までの「話す」力を伸ばす授業について理解する。 2. 初級の「話す」ことの授業の流れや指導のポイントを理解する。	1. 「話す」力の初級から上級までのレベル 2. 初級レベルの代表的な教科書 3. 初級レベルの「話す」力をつけるための練習
	2				<p>【1 教育実践のための技能】</p> <p>(3) 学習者の自立学習を促進し、主体的に学ぶ力を育てるための教育実践ができる。</p> <p>⇒ <知識>コースデザイン、授業計画、教授法 <演習>初級、初中級、中級、上級</p> <p>【2 成長する日本語教師になるための技能】</p> <p>(6) 指導計画に基づき実践した授業や教育活動を分析的に振り返り、改善と新たな実践のための検討ができる。</p> <p>⇒ <演習>初級、初中級、中級、上級</p>	評価法		初級レベルで期待される「話す」力がどのようなものであるか理解し、それを評価することができる。	1. Can-doによる評価 2. JF日本語教育スタンダード準拠のロールプレイテスト評価
	3				<p>【1 教育実践のための技能】</p> <p>(1) 日本語教育プログラムを踏まえ、学習者の状況に応じ、教育的視点から見て適切な指導計画を立てることができる。</p> <p>⇒ <知識>コースデザイン、授業計画 <演習>初級、初中級、中級、上級</p>	指導案作成		代表的な教科書を用いて「話す」力をつけるための指導案（「学び」の計画案）を作成することができる。	1. 学習者の想定 2. 学習者の目線に立った目標・場面・練習方法の設定 3. 学習者同士のインターアクションを中心とした授業デザイン
第 6 回	1	演習（初級） 集合型 研修	言語と教育	⑩ 言語 教育 法・ 実習	<p>【1 教育実践のための技能】</p> <p>(1) 日本語教育プログラムを踏まえ、学習者の状況に応じ、教育的視点から見て適切な指導計画を立てることができる。</p> <p>⇒ <知識>コースデザイン、授業計画 <演習>初級、初中級、中級、上級 (4) ICT等の多様なリソースを活用した効果的な教育実践ができる。</p> <p>⇒ <知識>留学生のための教材・教具リソース <演習>初級、初中級、中級、上級</p>	教材作成	3 2 1 初級から上級までにおいて、「話す」ことの指導の流れを理解できるようになる。	1. 「話す」力をつけるための指導案に即した教材を準備することができる。 2. 1の教材を効果的に使うことができる。	模擬授業準備
	2				<p>【1 言語教育者としての態度】</p> <p>(1) 複数の教員でクラスを担当するチームティーチングについて理解し、講師間で連携・協力を図ろうとする。</p> <p>【3 文化的多様性・社会性に対する態度】</p> <p>(4) 留学生を取り巻く国内外の社会状況の変化に関心を持つとする。</p> <p>【1 教育実践のための技能】</p> <p>(3) 学習者の自立学習を促進し、主体的に学ぶ力を育てるための教育実践ができる。</p> <p>⇒ <知識>コースデザイン、授業計画、教授法 <演習>初級、初中級、中級、上級 (5) 様々な規模・形態のクラスの管理・運営を行うことができる。</p> <p>⇒ <知識>教室・言語環境の設定</p> <p>【3 社会とつながる力を育てる技能】</p> <p>(7) 教室内外の関係者と学習者をつなぎ、学習者の社会参加を促進するための教室活動をデザインすることができる。</p> <p>⇒ <演習>初級、初中級、中級、上級（※地域連携）</p>	教室活動1		作成した指導案・教材をもとに模擬授業を行うことができる。模擬授業における学習者の「学び」がどうであったかを観察して把握することができる。	模擬授業
	3				<p>【1 言語教育者としての態度】</p> <p>(1) 複数の教員でクラスを担当するチームティーチングについて理解し、講師間で連携・協力を図ろうとする。</p> <p>【3 文化的多様性・社会性に対する態度】</p> <p>(4) 留学生を取り巻く国内外の社会状況の変化に関心を持つとする。</p> <p>【1 教育実践のための技能】</p> <p>(3) 学習者の自立学習を促進し、主体的に学ぶ力を育てるための教育実践ができる。</p> <p>⇒ <知識>コースデザイン、授業計画、教授法 <演習>初級、初中級、中級、上級 (5) 様々な規模・形態のクラスの管理・運営を行うことができる。</p> <p>⇒ <知識>教室・言語環境の設定</p> <p>【3 社会とつながる力を育てる技能】</p> <p>(7) 教室内外の関係者と学習者をつなぎ、学習者の社会参加を促進するための教室活動をデザインすることができる。</p> <p>⇒ <演習>初級、初中級、中級、上級（※地域連携）</p>	教室活動2			模擬授業 振り返り

回	時限	形態	5区分	16下位区分	求められる資質・能力	科目	ねらい	内容		
第7回	1	演習(初中級)	集合型	言語と教育	⑩言語教育法・実習	【1 教育実践のための技能】(1)日本語教育プログラムを踏まえ、学習者の状況に応じ、教育的視点から見て適切な指導計画を立てることができる。 ⇒ <知識>コースデザイン、授業計画 <演習>初級、初中級、中級、上級 (2)キャリア支援の視点を持ち、それぞれの専門分野の学習に必要となる日本語能力を身に付けるための効果的な指導ができる。 ⇒ <知識>目的別・対象別日本語教育 <演習>上級	対象レベル別指導法	3 2 1 初中級から上級までにおいて、「書く」ことの指導の流れる理解できるようになる。	1. 初級から上級までの「書く」力を伸ばす授業について理解する。 2. 初中級の「書く」ことの授業の流れや指導のポイントを理解する。	1. 「書く」力の初級から上級までのレベル 2. 「書く」力を伸ばすための授業の進め方 3. 文字の指導
	2					【1 教育実践のための技能】 (3)学習者の自立学習を促進し、主体的に学ぶ力を育てるための教育実践ができる。 ⇒ <知識>コースデザイン、授業計画、教授法 <演習>初級、初中級、中級、上級 【2 成長する日本語教師になるための技能】 (6)指導計画に基づき実践した授業や教育活動を分析的に振り返り、改善と新たな実践のための検討ができる。 ⇒ <演習>初級、初中級、中級、上級	評価法		1. 「書く」力の評価にどのような方法があるかを知る。 2. どのようなルーブリックが設定されるかを知る。	1. 「書く」力の評価 2. ルーブリック
	3					【1 教育実践のための技能】(1)日本語教育プログラムを踏まえ、学習者の状況に応じ、教育的視点から見て適切な指導計画を立てることができる。 ⇒ <知識>コースデザイン、授業計画 <演習>初級、初中級、中級、上級	指導案作成		初中級レベルの「書く」力をつけるための指導案(「学び」の計画案)を作成することができる。	1. バックワード・デザイン
第8回	1	演習(初中級)	集合型	言語と教育	⑩言語教育法・実習	【1 教育実践のための技能】(1)日本語教育プログラムを踏まえ、学習者の状況に応じ、教育的視点から見て適切な指導計画を立てることができる。 ⇒ <知識>コースデザイン、授業計画 <演習>初級、初中級、中級、上級(4)ICT等の多様なリソースを活用した効果的な教育実践ができる。 ⇒ <知識>留学生のための教材・教具リソース <演習>初級、初中級、中級、上級	教材作成	3 2 1 初中級から上級までにおいて、「書く」ことの指導の流れる理解できるようになる。	1. 「書く」力をつける活動の授業ができるような指導案に即した教材を準備することができる。 2. 1の教材を効果的に使うことができる。	模擬授業準備
	2					【1 言語教育者としての態度】 (1)複数の教員でクラスを担当するチームティーチングについて理解し、講師間で連携・協力を図ろうとする。 【3 文化的多様性・社会性に対する態度】 (4)留学生を取り巻く国内外の社会状況の変化に関心を持つとする。 【1 教育実践のための技能】 (3)学習者の自立学習を促進し、主体的に学ぶ力を育てるための教育実践ができる。 ⇒ <知識>コースデザイン、授業計画、教授法 <演習>初級、初中級、中級、上級(5)様々な規模・形態のクラスの管理・運営を行うことができる。 ⇒ <知識>教室・言語環境の設定 【3 社会とつながる力を育てる技能】 (7)教室内外の関係者と学習者をつなぎ、学習者の社会参加を促進するための教室活動をデザインすることができる。 ⇒ <演習>初級、初中級、中級、上級 (※地域連携)	教室活動1		作成した指導案・教材をもとに模擬授業を行うことができる。模擬授業における学習者の「学び」がどうであったかを観察して把握することができる。	模擬授業
	3						教室活動2			模擬授業振り返り

回	時間	形態	5区分	16下位区分	求められる資質・能力	科目	ねらい	内容				
第9回	1	演習(中級)	集合型	言語と教育	⑩言語教育法・実習	【1 教育実践のための技能】(1)日本語教育プログラムを踏まえ、学習者の状況に応じ、教育的視点から見て適切な指導計画を立てることができる。 ⇒ <知識>コースデザイン、授業計画 <演習>初級、初中級、中級、上級 (2)キャリア支援の視点を持ち、それぞれの専門分野の学習に必要な日本語能力を身に付けるための効果的な指導ができる。 ⇒ <知識>目的別・対象別日本語教育 <演習>上級	対象レベル別指導法	3 2 1 中級から上級までにおいて、「聞く」ことの効果的な「聞く」授業を行えるようになる。	他の級と中級の相違点へ学習者、教材等)を理解できるようにする。 1. 初級から上級までの「聞く」力を伸ばす授業について理解する。 2. 中級の「聞く」ことの授業の流れや指導のポイントを理解する。	1. 「聞く」力の初級から上級レベルについて 2. 中級レベルの代表的な教科書 3. 聴解教材作成		
	2					【1 教育実践のための技能】 (3)学習者の自立学習を促進し、主体的に学ぶ力を育てるための教育実践ができる。 ⇒ <知識>コースデザイン、授業計画、教授法 <演習>初級、初中級、中級、上級 【2 成長する日本語教師になるための技能】 (6)指導計画に基づき実践した授業や教育活動を分析的に振り返り、改善と新たな実践のための検討ができる。 ⇒ <演習>初級、初中級、中級、上級	評価法				中級レベルで期待される「聞く」力がどのようなものであるか理解し、それを評価することができる。	1. 聴解の評価 2. 聴解の授業のカリキュラム 3. 聴解のテストと評価
	3					【1 教育実践のための技能】(1)日本語教育プログラムを踏まえ、学習者の状況に応じ、教育的視点から見て適切な指導計画を立てることができる。 ⇒ <知識>コースデザイン、授業計画 <演習>初級、初中級、中級、上級	指導案作成				中級レベルの「聞く」ための指導案(「学び」の計画案)を作成することができる。	1. 聴解教材を用いる際の指導案のポイント 2. 教材作成の方法 3. 解答と理解度
第10回	1	演習(中級)	集合型	言語と教育	⑩言語教育法・実習	【1 教育実践のための技能】(1)日本語教育プログラムを踏まえ、学習者の状況に応じ、教育的視点から見て適切な指導計画を立てることができる。 ⇒ <知識>コースデザイン、授業計画 <演習>初級、初中級、中級、上級(4)ICT等の多様なリソースを活用した効果的な教育実践ができる。 ⇒ <知識>留学生のための教材・教員リソース <演習>初級、初中級、中級、上級	教材作成	3 2 1 中級から上級までにおいて、「聞く」ことの効果的な「聞く」授業を行えるようになる。	1. 「聞く」力をつける活動の授業ができるような指導案に即した教材を準備することができる。 2. 1の教材を効果的に使うことができる。	模擬授業準備		
	2					【1 言語教育者としての態度】 (1)複数の教員でクラスを担当するチームティーチングについて理解し、講師間で連携・協力を図ろうとする。 【3 文化的多様性・社会性に対する態度】 (4)留学生を取り巻く国内外の社会状況の変化に関心を持つとする。 【1 教育実践のための技能】 (3)学習者の自立学習を促進し、主体的に学ぶ力を育てるための教育実践ができる。 ⇒ <知識>コースデザイン、授業計画、教授法 <演習>初級、初中級、中級、上級(5)様々な規模・形態のクラスの管理・運営を行うことができる。 ⇒ <知識>教室・言語環境の設定 【3 社会とつながる力を育てる技能】 (7)教室内外の関係者と学習者をつなぎ、学習者の社会参加を促進するための教室活動をデザインすることができる。 ⇒ <演習>初級、初中級、中級、上級 (※地域連携)	教室活動1				1. 作成した指導案・教材をもとに模擬授業を行うことができる。 2. 模擬授業における学習者の「学び」がどうかを観察して把握することができる。	模擬授業
	3						教室活動2					模擬授業振り返り

回	時間	形態	5区分	16下位区分	求められる資質・能力	科目	ねらい	内容		
第11回	1	演習(上級)	集合型	言語と教育	⑩言語教育法・実習	【1 教育実践のための技能】(1)日本語教育プログラムを踏まえ、学習者の状況に応じ、教育的視点から見て適切な指導計画を立てることができる。 ⇒ <知識>コースデザイン、授業計画 <演習>初級、初中級、中級、上級 (2)キャリア支援の視点を持ち、それぞれの専門分野の学習に必要な日本語能力を身に付けるための効果的な指導ができる。 ⇒ <知識>目的別・対象別日本語教育 <演習>上級	対象レベル別指導法	3 ・ 上級クラスにおいて、効果的な「読む」授業を行えるようになる。 2 ・ 初級から上級までの相違点(学習者、教材等)を理解できるようにする。 1 ・ 他の級と上級の相違点(学習者、教材等)を理解できるようにする。	1. 初級から上級までの「読む」力を伸ばす授業について理解する。 2. 上級の「読む」ことの授業の流れや指導のポイントを理解する。	1. 「読む」力の初級から上級までのレベル 2. 文章理解のプロセス 3. 上級で求められる「読み」
	2					【1 教育実践のための技能】 (3)学習者の自立学習を促進し、主体的に学ぶ力を育てるための教育実践ができる。 ⇒ <知識>コースデザイン、授業計画、教授法 <演習>初級、初中級、中級、上級 【2 成長する日本語教師になるための技能】 (6)指導計画に基づき実践した授業や教育活動を分析的に振り返り、改善と新たな実践のための検討ができる。 ⇒ <演習>初級、初中級、中級、上級	評価法		上級レベルで期待される「読む」力がどのようなものであるか理解し、それを評価することができる。	1. 読解の評価 2. 読解テストの出題の形式
	3					【1 教育実践のための技能】(1)日本語教育プログラムを踏まえ、学習者の状況に応じ、教育的視点から見て適切な指導計画を立てることができる。 ⇒ <知識>コースデザイン、授業計画 <演習>初級、初中級、中級、上級	指導案作成		上レベルの「読む」ための指導案(「学び」の計画案)を作成することができる。	1. 「読む」授業の計画 2. 読解ストラテジー 3. 読解授業の方法
第12回	1	講義	集合型	言語と教育	⑩言語実習	【1 教育実践のための技能】(1)日本語教育プログラムを踏まえ、学習者の状況に応じ、教育的視点から見て適切な指導計画を立てることができる。 ⇒ <知識>コースデザイン、授業計画 <演習>初級、初中級、中級、上級(4)ICT等の多様なリソースを活用した効果的な教育実践ができる。 ⇒ <知識>留学生のための教材・教具リソース <演習>初級、初中級、中級、上級	教材作成	作成した指導案・教材をもとに模擬授業を行うことができる。模擬授業における学習者の「学び」がどうであったかを観察して把握することができる。	1. 「読む」力をつける活動の授業ができるような指導案に即した教材を準備することができる。 2. 1の教材を効果的に使うことができる。	模擬授業準備
	2					【1 言語教育者としての態度】 (1)複数の教員でクラスを担当するチームティーチングについて理解し、講師間で連携・協力を図ろうとする。 【3 文化的多様性・社会性に対する態度】 (4)留学生を取り巻く国内外の社会状況の変化に関心を持つとする。 【1 教育実践のための技能】 (3)学習者の自立学習を促進し、主体的に学ぶ力を育てるための教育実践ができる。 ⇒ <知識>コースデザイン、授業計画、教授法 <演習>初級、初中級、中級、上級(5)様々な規模・形態のクラスの管理・運営を行うことができる。 ⇒ <知識>教室・言語環境の設定 【3 社会とつながる力を育てる技能】 (7)教室内外の関係者と学習者をつなぎ、学習者の社会参加を促進するための教室活動をデザインすることができる。 ⇒ <演習>初級、初中級、中級、上級 (※地域連携)	教室活動1		模擬授業	
	3					教室活動2	模擬授業振り返り			
第13回	1	講義	集合型	言語と教育	⑩言語実習	【2 成長する日本語教師になるための技能】 (6)指導計画に基づき実践した授業や教育活動を分析的に振り返り、改善と新たな実践のための検討ができる。 ⇒ <演習>初級、初中級、中級、上級	経験の振り返りや議論等を通じた内省力	1. 自分の授業を振り返り、問題点に気づき、それを改善するにはどうしたらいいか考え、実践し、授業を改善して行くことができる。 2. 研修や、OJT,さまざまな学びや教師の協働的な議論を通して、自己研修をすることができる。	1. PDCAサイクル、PDSAサイクル 2. 自己評価、相互評価 3. 自己研修力 4. 日本語教育学会、日本語学校教育研究大会、文化庁日本語教育大会	
	2					成果発表	この研修を振り返って情報を共有し、各現場に戻って生かすことができる。		発表	
	3									